



東洋大学附属牛久高等学校

SDGs Lab

茨城県牛久市上柏田1360-2

牛久大豆Ⅱで創る持続可能な未来 —地域から世界、そして宇宙へ—



【JICA研修生との大豆畑での交流活動】

日本遺産である牛久シャトーの職員の方々との交流がきっかけで、産業廃棄物として処理されているワインパミス（ブドウの種や皮）を堆肥化し、その堆肥で大豆を栽培するアイデアが生まれました。2030年には、タンパク質の需要が供給を上回る世界的な「タンパク質危機」が予測されており、環境負荷が低い方法でタンパク質含有量の高い大豆を栽培し、大豆ミートに加工することは、持続可能な地球環境の創造に有効であると考えました。

本活動は、主に次の3点を目的としています。

- ①**大豆ミートの特產品化と循環型大豆生産モデルの世界展開**
- ②**開発途上国への大豆栽培・大豆ミートの普及と飢餓の防止**
- ③**大豆ミートを用いた宇宙日本食・日本災害食の開発**